

授業科目(ナンバリング)	ボランティア論(AB110)			担当教員	坂本雅俊、熊谷賢哉		
展開方法	講義・演習 実習	単位数	2単位	開講年次・時期	1年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>ボランティアに関する精神、歴史、理念及び方法について講義と実体験を通して総合的に理解できる。 ①歴史と現状、②福祉・教育・環境・スポーツ・災害、被災後等の活動理論、③機関及び組織との連携・協力の方法、④地域のボランティア情報を収集し参画する方法。⑤NPO法人の活動などを理解できる。 ボランティア及び活動記録の方法、活動時の倫理的配慮、活動の広報、リスクマネジメント等を具体的に体験し理解することをねらいとする。</p>							② ⑦ ⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	ボランティアシップについて理解できる。 アダプテッドスポーツについて体験し理解できる。				・ボランティア実習記録書 ・アダプテッドスポーツの評価	10%	20%
情報収集、分析力	福祉ボランティアをはじめ、社会の課題を情報収集し、ニーズに対して自己及び社会の成長に役立てることができる。				授業内ワークシート	10%	
コミュニケーション力	被災後及び地域の日常的なボランティアに関して、それらにかかわる多様な立場の人々と相互理解を図ることができる。				実習発表会の振り返りレポート	10%	
協働・課題解決力	ボランティアの現場で、周りの人と協力して、様々な課題に対応することができる。				ボランティア実習	40%	
多様性理解力	急激に変化する地域社会と、生活者の危機や平時のニーズ等について、相手の立場になって理解することができる。				授業内ワークシート	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>授業内ワーキングは、意見交換や情報収集に取り組む、その際「他者理解、ニーズ把握」を文章で表現できているかを評価する。そしてワーキング内容の代表的な意見を授業内でフィードバックし学生間で共有知識とする。アダプテッドスポーツは方法と理論を学び体験し、レポートにより評価を行う。実習発表会レポートは獲得した専門性の表現力を評価する。ボランティア実習は、2日以上行い、提出記録書で評価する。発表会は、ボランティア実習終了後の年度末にボランティアチーム毎に個人発表を行い、体験内容を皆の前で披露するので参加することを義務とする。</p>							
授業の概要							
<p>授業に関する情報は授業内及び「ポートフォリオ」を通じて伝達する。特に、ボランティア実習の日程や終了報告は「ポートフォリオ」に学生が記入することで認定する。授業の方法は、面接講義、アダプテッドスポーツ演習とボランティア実習に参加することが必須である。外部講師の講話受講の日程は授業内で連絡するため案内に注意すること。ボランティア実習先は大学へ依頼のあった機関を紹介するが、学生自身が探した場合は教員の許可を必要とする。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：岡本榮一他編「学生のためのボランティア論」(2014) 社会福祉法人大阪ボランティア協会出版部 指定図書：日本福祉教育・ボランティア学習学会編「ボランティアネットワークと大学の変容の可能性」(2002) 万葉社 参考書：大阪ボランティア協会編「市民活動論(改定第二版)」(2014) 大阪ボランティア協会出版部 実習ノート：関連資料とともに授業内で配布する。</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること			
<p>ボランティアには新しい出会いがたくさんある。既成にとらわれない新しい活動も自ら発見して行って欲しい。無償性・主体性・継続性が基本であり、大学生のときにしかできないことを体験して欲しい。</p> <p>ボランティア実習では、自分自身を守ることとても重要なことである。ボランティア開始から終結までの手順を学習・体験できるが、そこにはボランティアを必要とする方がおられることを意識した上で受講してほしい。</p> <p>なお、ボランティア実習は原則、夏季休暇を利用して行う。</p>			
回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	ボランティアとは 歴史と理念	ボランティア入門のための概説、ボランティア実践の心構え、ボランティアを活用するヒトの気持ちを知る。ボランティアの定義を学修できる。(坂本)	予習：世界のボランティア活動を調べる。復習：レポートを作成する
2	地域のボランティアを探す	地域にあるボランティアの調べ方について説明する。(坂本)	予習：長崎県内のボランティアについて調べる。復習：演習を振り返り、その内容をレポートにする。
3	ボランティアとしての基礎知識	ボランティアとしての心がけやマナー、ボランティア先を決める際の連絡の仕方について説明する。(坂本)	予習：配布資料 復習：演習を振り返り、その内容をレポートにする。
	ボランティア活動実践の拠点としてのNPO法人	ボランティア活動の拠点づくりにNPO法人制度を利用した組織化が有益である。NPO法人の基本知識や設立の方法を理解できる。(外部講師・坂本)	予習：興味のあるボランティア活動に関するNPO法人、助成金をネットで調べてくる。復習：振り返る
5	災害ソーシャルワーク	災害時のDMATの活動を知り、クライシスマネジメント、リスクマネジメント理論を理解し、災害ソーシャルワークの基礎を学修できる。(坂本)	予習：DMATを調べる。復習：講義を振り返り、災害SWを理解を深める。
6	アダプテッドスポーツの実践①	「シッティングバレーボール」の実践を通して障がい者を理解できる。(熊谷)	レポート(シッティングバレーボールについて)作成
7	アダプテッドスポーツの実践②	「ゴールボール」の実践を通して障がい者を理解できる。(熊谷)	レポート(ゴールボールについて)作成
8	アダプテッドスポーツの実践③	「フライングディスク(アキュラシー)」の実践を通して障がい者を理解できる。(熊谷)	レポート(フライングディスク(アキュラシー)について)作成
9	ボランティア先を調べる	ボランティア先を調べ、どのような理念や趣旨で活動をしているかについてグループで報告する。 締切：ボランティアの日程を報告。(坂本)	予習：ボランティア先を調べる。復習：調べた内容を整理する。
10	あなたの望むボランティア活動	ボランティア初日に着ていく服装で授業に参加し、ボランティアでどのようなことをしたいのかをグループで報告する。ボランティア実習までのスケジュールについて確認する。(坂本)	予習：ボランティアでしたいことを考える。復習：ボランティア実習までのスケジュールを整理する。
11	ボランティア実習	大学と提携している機関でのボランティア実習 ①平戸市社会福祉協議会主催のボランティア活動 ②24時間テレビチャリティへの参加 ③地域の福祉施設や学友の支援ボランティア活動 ④災害ボランティア 被災地へ出向く活動 ⑤その他 教員が認めた学生希望する活動 (坂本)	オリエンテーションへ参加する
12	ボランティア実習	<p>興味や日程に応じて、共にボランティアを行うグループ分けを行い、リーダーを決め、協力してボランティアに参加する。</p> <p>参加後は学生各自が「マナバ」へ「ボランティア実習記録書」を提出する。</p> <p>(坂本)</p>	<p>記録を作成する レポートを作成する</p>
13	ボランティア実習		
14	ボランティア実習		
15	ボランティア実習		
16	プレゼンテーション発表	全員がボランティア実習体験発表を行う。感動した言葉や観察した行動について互いの発表を聞き、共有する学修ができる。(1月補講日を予定)(坂本)	発表のための準備を行う。アプロプリエーション(発表者の声の積み重ねを獲得する)として振り返る。